



沼津の宝百選巡りバスツアーの一行が来園



芹沢光治良ゆかりの地巡り一行が視察に来園

一昨年の市制施行百年を記念した「沼津の宝百選」に帯笑園が選ばれ、昨年は市が募集した沼津の宝百選巡りバスツアーの一行が訪れたり、沼津市芹沢光治良記念館が募ったゆかりの地巡りで帯笑園が最初の訪問地に選ばれるなどして、帯笑園の認知度が高まる契機となりました。

帯笑園の認知度が高まる

沼津の宝百選に選ばれ、

帯笑園保存会 会報

発行元保存会事務局
発行責任者鈴木泰次
2025年 6月20日
No. 14

地元の小中学校の児童・生徒らが来園、園内を見学

原東小学校では、原茶道愛好会のご協力をいただき、六年生が初めての茶の湯を味わう茶の湯体験学習会を開催しました。

《臨春亭で茶の湯体験》



西藏で展示資料の説明を受ける生徒たち

昨年五月には、今沢中一年生五十五名、六月に原小四年生七十二名、一二月に原東小六年生三十二名が見学に訪れています。地元の小中学生たちが郷土の歴史遺産である帯笑園を知り、誇りに思う気持ちを育みたいものです。



臨春亭前で茶席の順番を待つ子供たち



俳句結社「湧」による吟行

一月には、今沢地区の民生児童委員協議会による長井崎地区協議会との合同研修会一行が訪れ、また、原・今沢地区の俳句会が、所属の結社「湧」の吟行会を催しました。

エビネ山野草展

4月13日(日)

静岡県えびね山野草会の展示にファン
128名が鑑賞に訪れました。



春の山野草展

5月25日(土)、26日(日)

愛鷹山草会会員らによる山野草の展
示と即売に218名が来園。



桜草鑑賞・琴の演奏鑑賞会、抹茶席

4月6日(土)、7日(日)

頼重市長・奥村教育長・地元選出市議等を
来賓にお迎えし、渡辺富鳳・鳳代賀先生御一
門の琴の演奏、原茶道愛好会の抹茶席など恒
例の催しが行われ、沼津さくらそう会ほかの
皆さんのご協力を得て、450鉢のサクラソウ
が出展されました。410名が来園し、2年ぶ
りの琴の演奏に耳を傾けました。

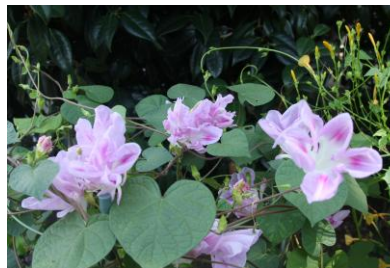


写真による令和6年度の事業報告

大輪アサガオ・変化アサガオ展

7月26日(金)～28日(日)

本会園芸部会員やアサガオの育て方教室
受講者を中心に、5月から取り組んだ成果
の発表の場である展示会に164名が鑑賞に
訪れた。



エッ、これがアサガオ?



ウチョウラン展

6月8日(土)、9日(日)

本会会員の佐野光弘さんが伊豆うちょう
蘭会のお仲間の皆さんとともに開催する展
示会に180名が来園し、作品を鑑賞しました。



近ごろクリスマスローズが人気

3月2日(日)

クリスマスローズ展と育て方教室を同日開催。41名の教室受講者が苗を持ち帰り、来年の開花を目標に取り組んでもらうことに。展示棚や外に設けた棚に多くの花が並び、120名余の観覧者に楽しんでいただきました。



秋の七草・山野草・キク花展

10月26日(土)、27日(日)

多目的広場と西蔵を展示会場に開催。屋外の展示棚には、「やさしいキクの育て方教室」受講者が育てて持ち寄ったガーデンマムが見事に咲き誇り、西蔵に飾られた多様な草花が230名余の観覧者を楽しませてくれた。



大輪アサガオ・変化アサガオの育て方教室

4月27日(土) 43名が受講

7月下旬のアサガオ展に出展を目指し教室を開催。講師に丸橋章二先生、変化アサガオの紹介を鈴木昌宙先生にお願いした。タネの芽切りの初歩から教わり7月の作品展に向けて取り組んでいただくこととなった。



ナデシコの育て方教室

11月9日(土) 37名が受講

古地図に描かれた帯笑園ゆかりのナデシコについての理解を広めることをねらいに、育て方の教室を開催。

鈴木先生に講師を務めていただきました。



やさしいキクの育て方教室

5月18日(土) 29名が受講

秋の山野草展に合わせキクの展示会を催したいと始まった育て方教室。栽培に精通した中原久忠会員が講師となり開催。上の写真のように受講者の作品が受賞。



サクラソウの育て方教室

2月8日(土) 27名が受講

沼津さくらそう会の武川利一会长、池田博司副会長に講師をお願いし、受講者にはサクラソウの苗を持ち帰り、育てていただくことにしました。



薩摩琵琶演奏会を開催

十月十九日（土）午後七時開演

恒例となった秋の夜の薩摩琵琶の演奏会を今回も開くことができました。富士市の久保田湖水先生と御一門による演奏会も会を重ねて今回が九回目となります。秋の名月の下での開催を楽しみに待っている方々も増え、臨春亭前庭の観客席で開け広げた屋敷から間近かに聞かれる醍醐味が何ともいえぬ魅力だとの声も聞きます。

今回も天候が気にかかりながらも恙無く会が催され、来場された皆さんは満足して家路につかれたことでしょう。



再発見！江戸時代の盆栽鉢が臨春亭前庭に残っていた！

保存会会員で、長らく盆栽づくりに励んで来られた芦川光義さんが、帯笑園にあった盆栽を特集した雑誌『盆栽世界』二〇〇六年二月号を寄贈されました。記事には、帯笑園の概要と江戸時代中期に帯笑園で栽培されていた松の盆栽が紹介されていました。著者は日本盆栽協会理事の丸島秀夫氏で、帯笑園の松と蘇鉄の盆栽について解説しておられます。氏は帯笑園へ取材に訪れ、庭に『蘇る幕末—ライデン大学写真集より』（朝日新聞社刊）に載った江戸時代の写真にある盆栽が現存することを見出したのでした。しかも、秀逸な松の盆栽である釣磯翁ちようきおうの銘が写真の木札から読み取れたとも書いています。この盆栽は、帯笑園の俯瞰図から、南側の枯山水に擬した庭園の庭石の上に置かれていたことが分かっていますが、戦後、置き場所を移され、盆栽鉢の記憶も忘れ去られたのでしようが、幸いにも帯笑園の臨春亭前庭に残されていたのでした。

『盆栽世界』のこの記事を読んで吃驚した保存会副会長の杉本伸三さんは、早速、臨春亭前庭に並んだ鉢を調査し、今も無傷のまま置かれていることを確認したのでした。



これを受けて事務局では、今年三月のハスの植え替え作業の時に、汚れをきれいに洗い流し保全することを役員会に提案。保存会役員会では、この提案を了承し、新たに展示台を購入し、西蔵に展示することにしました。

この鉢と植松家の人々が写った大きな写真が西蔵に掲示されています。朝日新聞社刊の『蘇る幕末—ライデン大学写真集より』もガラスケースに展示してありますので、立派な盆栽が生けられた釣磯翁の盆栽のかつての姿を知ることができます。

釣磯翁の鉢のいわれが忘れ去られたまま臨春亭前庭に置かれた経緯は不明ですが、今回の再発見が帯笑園の歴史に思いをいたす一つの契機となれば幸いに存じます。